



# 南海研だより

1981年 9月 No. 4

(改題No.1)

題字 石神 兼文学長

## 「南海研だより」と改名するにあたって

中尾 佐助

南総研センターは昨年4月より活動を開始したが、そのセンターは学内処置によって生れたものであったので、専属教官は1名にすぎず、また正規の予算も全然無かったので、その活動は思うにまかせなかった。しかし本年4月から、文部省により「南方海域研究センター」として、正式に定員化され、教授2、助手1の専属教官によって出発することになった。

センターを省令によって開設するには、学内に諸規則を制定し、各種の準備をととのえねばならない。それらは7月になってやっと最終的に決定され、いよいよ具体的活動に入る段階になってきた。また、センターの研究活動に参加する兼務教官の規則も正式にきまり、学長により任命され、目下の数は76名（昭和56年9月7日現在）に達している。大学の附置の研究施設

として南海研は専任教官の数は目下のところ3名にしかすぎないが、他大学にない多数の兼務教官を擁することは、鹿児島大学の南海研センターのいちじるしい特色である。これによってセンターは南方海域の地域研究センターとして、学際的研究を推しすすめることができるし、学問上広い分野にわたってカバーできることになる。

南海研センターではこのような多数の兼務教官の研究促進のため、多数の共同研究チームづくりをし、各チームは常時研究会をそれぞれ開いて研究を進める体制を構想している。このチームの運営及びその活動には、いわば潤滑油程度の費用はセンターから支出できる見込みである。新規の教授1、助手1もこれからセンターに加わり、いよいよ運転開始である。

南方海域研究センター兼務教官名簿

56. 9. 7現在(各部局届出順)

職名	氏名	所属講座等	職名	氏名	所属講座等
(法文学部)			教授	雨宮 淳三	獣医公衆衛生学
助教授	上村 俊雄	考古学	〃	河野 猪三郎	家畜病理学
講師	石村 満宏	人文地理学	〃	小林 昭	生物化学及び栄養化学
〃	下野 敏見	文化人類学	〃	有隅 健一	観賞園芸学
助手	本田 道輝	考古学	〃	永浜 伴紀	澱粉利用学
(教育学部)			〃	橋口 勉	家畜育種学
教授	田代 一男	農業	助教授	坂本 司	家畜病理学
〃	小林 孝子	被服学	〃	藤田 晋輔	森林利用学及び林産製造学
〃	松田 健一	木材加工	〃	浜名 克己	家畜臨床繁殖学
(理学部)			〃	八尋 正樹	熱帯作物学
教授	鎌田 政明	無機化学及び分析化学	〃	田辺 幾之助	応用微生物学
〃	早坂 祥三	地質及び古生物学	〃	富田 裕一郎	家畜栄養学
〃	柿沼 好子	環境生物学	〃	石畑 清武	熱帯植物学
助教授	大塚 裕之	地質及び古生物学	講師	林 満	熱帯作物学
〃	糸野 洋	系統分類学	助手	榎下町 鉦敏	害虫学
講師	市川 敏弘	環境生物学	助教授	岩堀 修一	果樹園芸学
助手	山根 正気	系統分類学	教授	小倉 弘司	蔬菜園芸学
〃	大木 公彦	地質及び古生物学	〃	片山 忠夫	作物学
(医学部)			助教授	湯川 淳一	害虫学
教授	寺脇 保	小児科学	助手	衛藤 威臣	蔬菜園芸学
〃	朝倉 哲彦	脳神経外科学	助教授	藤本 滋生	澱粉利用学
助教授	柳橋 次雄	公衆衛生学	(水産学部)		
講師	木原 大	熱帯医学	教授	柿本 大壺	微生物学
助手	安藤 哲夫	公衆衛生学	〃	片山 輝久	海洋資源生物化学
〃	泊 惇	〃	〃	岩切 成郎	国際海洋政策学
〃	内川 隆一	医動物学	〃	高橋 淳雄	海洋環境物理学
〃	又吉 盛健	熱帯医学	〃	税所 俊郎	海洋生物学
〃	馬場 泰光	小児科学	助教授	今井 健彦	漁具学
(工学部)			〃	市川 英雄	水産経営経済学
教授	伊藤 行	建築史及び意匠	〃	米盛 亨	漁法学
〃	武石 泰亮	電子計測工学	〃	手島 新一	海洋資源栄養化学
(農学部)			〃	茶円 正明	海洋環境物理学
教授	大塚 潤一	家畜解剖学	〃	松田 恵明	国際海洋政策学

職名	氏名	所属講座等	職名	氏名	所属講座等
(水産学部)			(教養部)		
講師	川村軍蔵	漁法学	教授	浦島幸世	地学
助手	市川洋	海洋環境物理学	〃	田川日出夫	生物学
〃	四宮明彦	海洋生物学	〃	大西富雄	化学
教授	平田八郎	増殖生理学	〃	石澤良昭	歴史学
助手	山崎繁久	〃	〃	西義郎	日本語・日本事情
〃	門脇秀策	養殖漁場環境学	助教授	田村克己	文化人類学
〃	坂田泰造	微生物学	〃	新田栄治	歴史学
〃	田中淑人	海洋資源生物化学	講師	鈴木英治	生物学
			教授	荻原弘明	歴史学

### 南方海域研究センター協議会委員名簿

56. 8. 1現在

選出母体	所属学部等	氏名	任期
センター長		○中尾佐助	56. 7. 10~58. 3. 31
センター教官 6名	理学部	早坂祥三	〃
	工学部	武石泰亮	〃
	農学部	△雨宮淳三	〃
	水産学部	岩切成郎	〃
	〃	川村軍蔵	〃
	教養部	石澤良昭	〃
各学部・教養部 9名	法文学部	皆村武一	〃
	教育学部	坂東義雄	〃
	理学部	長谷綱男	〃
	医学部	松下敏夫	〃
	歯学部	浦郷篤史	〃
	工学部	岡村俊一	〃
	農学部	河原田礼次郎	〃
	水産学部	金沢昭夫	〃
	教養部	末永政治	〃

幹事：庶務部長・書記：庶務課文書係

※ ○印は委員長又は議長を、△印は副委員長又は議長代行を示す。

## 南方海域研究センター小委員会委員名簿

56. 7. 6現在

	氏 名	学 部 等	学 内 電 話 番 号
運 営 小 委 員 会	早 坂 祥 三	理	4 3 1 0
	片 山 忠 夫	農	5 4 8 0
	岩 切 成 郎	水 産	6 - 3 6 0
	平 田 八 郎	〃	6 - 5 3 0
	石 澤 良 昭	教 養	5 7 1 0
出 版 小 委 員 会	早 坂 祥 三	理	4 3 1 0
	有 隅 健 一	農	5 4 1 0
	川 村 軍 蔵	水 産	6 - 3 3 1
	田 川 日 出 夫	教 養	5 7 7 0
研 究 小 委 員 会	小 林 孝 子	教 育	3 8 0 1
	片 山 忠 夫	農	5 4 8 0
	林 満	〃	5 1 0 7
	平 田 八 郎	水 産	6 - 5 3 0
	浦 島 幸 世	教 養	5 8 2 0

## 56年度南海研特定研究調査隊(概要)

**研究題目** 主題：「オセアニア海域における水陸総合学術調査」

副題：(1)オセアニアの自然  
 (2)オセアニアの社会・文化  
 (3)オセアニアの農・水産

**調査目的地** フィジー諸島(ビテラ島、バヌア島など)

**調査期間** (予定につき、若干変更されることもある)

56年12月12日～57年1月22日の42日間・内洋上30日間、入港12日間

鹿児島出港12月12日(土)、スバ入港12月28日(月)、スバ出港1月9日(土)、鹿児島帰港1月22日(金)

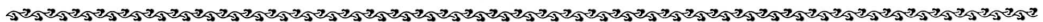
**調査船** 「かごしま丸」(1,290トン)(10月末の新造船)

**兼務教官の募集人員** 17名

条件：(1)パスポートは各自で取得(自費)

(2)食卓料は全額支給するが、航海日当は半額プール

(3)フィジー国の陸上で自由行動に要する費用は自己負担



南海研だより No.4 昭和56年9月16日発行

鹿児島大学南方海域研究センター

〒890 鹿児島市郡元一丁目21-24 電話 0992(54)7141(内線)2053